



TITLE:

京大広報 No. 419

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 419. 京大広報 1991, 419: 191-196

ISSUE DATE:

1991-12-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209244>

RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.

京大広報

No. 419

京都大学広報委員会



京大オーケストラ演奏風景（指揮者は初代常任指揮者エマヌエル・メッテル氏）

昭和6年（1931）撮影 一関連記事本文194ページ

目 次

<大学の動き>

- 次期総長に井村裕夫教授を選出…………… 192
秋の火災予防運動…………… 193

<栄誉>

- 医学教育等関係業務功労者の表彰…………… 193

<部局の動き>

- 放射性同位元素総合センター
創立20周年記念行事…………… 193
京都大学写真集企画委員会写真展の開催…………… 194
「白馬山の家」の冬季開設…………… 194

<随想>

虚学のすすめ

名誉教授 小堀 鐸二…………… 195

<コラム>

総長選挙の日

ウイルス研究所教授 畑中 正一…………… 196

平成4年度大学入学者選抜

大学入試センター試験の実施…………… 196

総合人間学部の設置準備に当たって（所感）

（別冊）…………… 197

＜大学の動き＞

次期総長に井村裕夫教授を選出

現総長の任期満了（12月15日）に伴う次期総長候補者の選考が11月17日（日）開催の臨時評議会において行われ、その結果、井村裕夫教授（医学部内科学第二講座担当）が選ばれた。

総長候補者の選考は、選挙資格者による選挙の結果に基づいて評議会で行われる。今回の選挙は11月11日（月）から11月16日（土）までの郵便による投票と、11月16日、17日の両日にわたる各部局における投票によって行われた。開票は、評議会で選出された評議員8名の立会いのもとに行われた。

なお、今回の選挙では、第1次投票に対する選挙資格者は2,622名であり、第2次投票以降では1,574名であった。

1 第1次投票

第1次投票における投票者数は郵便による投票者83名を含め、1,514名であった。

この投票は、2名連記で、投票総数3,028票、うち有効投票数は2,795票、無効投票数は233票であり、次の15名が第1次総長候補者に選ばれた。

朝 尾 直 弘	中 川 博 次
井 村 裕 夫	東 村 敏 延
岩 井 保	日 高 敏 隆
川 又 良 也	深 海 浩
北 川 善太郎	丸 山 和 博
木 下 富 雄	矢 野 暢
久 馬 一 剛	山 室 隆 夫
佐 藤 文 隆	(五十音順)

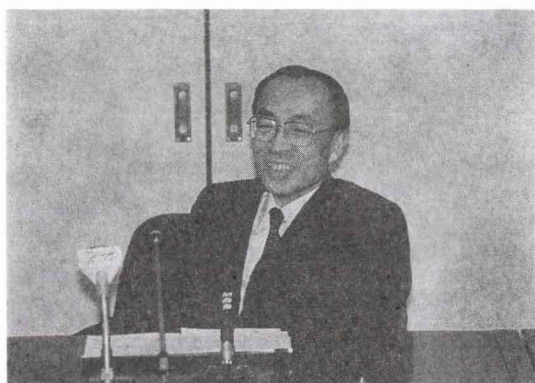
2 第2次投票

第2次投票は、第1次総長候補者15名に対して、単記により行われた。投票総数940票、うち有効投票数は930票、無効投票数は10票であり、次の3名が第2次総長候補者に選ばれた。

井 村 裕 夫
中 川 博 次
日 高 敏 隆
(得票順)

3 第3次投票

第3次投票は、第2次総長候補者3名に対し



臨時評議会終了後記者会見する井村裕夫教授

て、単記により行われ、投票総数947票、うち有効投票数は931票、無効投票数は16票であったが、開票の結果、いずれの候補者の得票数も有効投票数の過半数に達しなかったため、得票多数の次の2名について決選投票が行われることとなった。

井 村 裕 夫
日 高 敏 隆
(得票順)

4 決選投票

決選投票は、決選投票総長候補者2名に対して、単記により行われ、投票総数865票、うち有効投票数は856票、無効投票数は9票であり、各候補者の得票数は次のとおりであった。

井 村 裕 夫	462票
日 高 敏 隆	394票

この結果、井村裕夫教授が得票過半数を得て第3次総長候補者に選ばれた。

5 選 考

臨時評議会は、選挙の結果に基づき、次期総長候補者として井村裕夫教授を選考し、同氏はこれを受諾した。

井村裕夫教授の略歴

本籍地	滋賀県	昭和6年2月4日生（60歳）
昭和29年3月	京都大学医学部卒業	
昭和29年4月	大津赤十字病院にて医学実地修練（昭和30年3月まで）	
昭和30年6月	医師国家試験合格	
昭和30年7月	京都大学医学部附属病院副手	

昭和31年 3 月	大津赤十字病院医員
昭和33年 4 月	京都大学大学院医学研究科博士 課程入学
昭和37年 3 月	同上単位修得退学
昭和37年 4 月	京都大学医学部附属病院副手
昭和37年 6 月	京都大学医学部附属病院助手 京都大学大学院医学研究科博士 課程修了 京都大学医学博士
昭和38年11月	米国カリフォルニア大学研究員 (昭和40年2月まで)
昭和40年 8 月	京都大学医学部講師
昭和46年 9 月	神戸大学医学部教授
昭和52年 4 月	京都大学医学部教授
平成元年 4 月	京都大学医学部長(現在に至る)

秋の火災予防運動

「秋の火災予防運動」(11月9日(土)～11月15日(金))の一環として、11月14日(木)12時から13時まで左京消防署による実演等が、本部構内時計台前において実施された。

ガス爆発事故・火災の発生を防ごうと、緊急に行われた本学立入検査結果の講評と対策等の講話があり、実際に起震車等を使って実験器具・化学薬品及びガスボンベ等の安全管理を教職員や学生に呼びかけた。

また、はしご車を作動させ消防自動車の作業に必要なスペースを説明し、本学構内の不法駐車が火災等緊急時における消防自動車等緊急自動車の進入や消火活動を妨げる大きな原因となっている現状を示し、不法駐車車両の撤去要請があった。

<栄誉>

医学教育等関係業務功労者の表彰

大塚節子技官(医学部附属病院看護部看護婦)は、医学教育等の関係業務に関し顕著な功労があったことにより、11月25日、文部大臣から平成3年度医学教育等関係業務功労者の表彰を受けた。

<部局の動き>

放射性同位元素総合センター 設立20周年記念行事

放射性同位元素総合センターは、設立20周年を迎え、その記念行事として10月30日(水)に京大会館で講演会(15時～17時)と祝賀会(18時～20時)を開催した。

講演会では、日頃のセンターの研究活動を栗原紀夫センター長が、また、京都大学におけるほとんど100年にわたる RI 利用の歴史を放射性同位元素総合センターの歩みとともに初代センター長の清水 榮名誉教授が講演を行い、来賓の奥田 東元総長、協坂行一前滋賀医科大学学長や歴代センター長をはじめ、学内・学外の多数の関係者の熱心な聴講があった。

「放射性同位元素総合センターにおける研究活動」

センター長 栗原紀夫

「京大における

RI 利用の歴史」名誉教授 清水 榮



祝賀会には、全国国立大学アイソトープセンター長や、武部 啓本学放射性同位元素等管理委員会委員長、西村 進本学放射線障害予防小委員会委員長など関係者約100名の参加があり、栗原紀夫センター長の挨拶、清水 榮初代センター長と高石道明庶務部長の祝辞が述べられ、また、文部省国際学術局鳴野英彦学術情報課長他の祝電が披露された後、奥田 東元総長の発声で乾杯が行われ、なごやかな歓談に入り盛会のうちに終わった。

(放射性同位元素総合センター)

京 都 大 学 写 真 集 企 画 委 員 会 写 真 展

— 京 大 の 情 景 —

本学写真集企画委員会では、附属図書館との共催により、下記のとおり『写真展—京大の情景—』を附属図書館3階展示ホールにて開催いたします。

この展覧会は、本学創立100周年(1997年)に向けて、本学の歴史に関係する写真等の資料の収集・整理・保存を図り、併せて記念写真集の編集・出版の準備として当委員会のもとに、これまでに広く学内外から寄せられた約2,000点に及ぶ写真・資料の中から約100点を選んでパネルに仕立て、これらの写真等を通じて京都大学の歩みを振り返るものであります。

記

期 間 平成3年12月12日(木)～12月21日(土)

(日曜日12月15日は休館)

時 間 午前9時30分～午後4時30分

会 場 京都大学附属図書館展示ホール(3F)

(備考) 入場無料

問合せ先 庶務部広報調査課(電話学内2073)

(写真集企画委員会)



【写真】京都市動物園のオリから脱走、射殺されたライオン「小櫻」を法医学的見地から学術解剖をする医学部小南教授及び様子を伝える当時の新聞

「白馬山の家」の冬季開設

本学の学生及び教職員の厚生施設として、例年夏季及び冬季に開設されている「白馬山の家」を、今冬も下記により開設します。

この山の家は、中部山岳国立公園白馬山麓の榊池高原にあり、雄大な北アルプスの峰々に囲まれ、積雪量も多く、雪質の良さとともにスキーには絶好の条件を備えており、初心者向きから上級者向きまで各種のゲレンデがあります。

なお、建物は山小屋風の木造地上2階、地下1階建てで、間取りは1階が食堂兼談話室、2階が寝室、地階が浴室、乾燥室等からなっています。

記

1. 名 称 京都大学^{はくば}白馬山の家(電話 0261-83-2405)

2. 所在地 長野県北安曇郡小谷村大字千国字柳久保乙869の2

(交通機関)

JR大糸線「白馬大池駅」下車、松本電鉄バス「^{おや}親の^{はら}原」下車、徒歩約20分

3. 開設期間 12月20日(金)～1月10日(金)並びに2月20日(木)～4月10日(金)

4. 収容人員 26名

5. 所要経費 1人1泊 使用料80円、ほかに食費等実費程度

6. 申し込み及び利用に関する詳細は、体育会事務室(西部構内総合体育館内、電話学内2574)に照会してください。

7. その他 当施設には、駐車場がないため、自動車での利用は避けて下さい。(学生部)

